

教案 2 子どもと保護者が全員で創る:子どもの好きから始まる「わたしプロジェクト」

〔後期の実際の活動の記録 + 修正バージョンの進め方案〕

目次

対象となる子ども	1
目標	1
活動実施上の基本方針	2
年間の活動の構造	3
実際の活動の記録:【後期7回】	4
交流プログラムの計画	4
交流プログラムの実施	9
交流プログラムの振り返り	11
プロジェクト報告発表会	13
後期活動修正バージョン	14
全体の概要(大まかな流れ):	15
後期プロジェクトの計画(2回)	15
交流プログラムの企画(全4回)	19

■ 対象となる子ども

年齢	11歳から15歳まで(→主体的に活動を考えられる年齢なら何歳でも)
人数	14人(→4人以上いるとやりやすい)
経験・知識	特に必要な経験や知識はいらない 子どもたちのこれまで築いてきた経験と知識を活かしてできる活動
日本語力の目安	特にない。日本語力のレベルに関係なく活動できる

■ 目標

目的	主体的な活動や対話を通じて他者とつながりながら、自分と社会との関係に目を向ける
目標	- 自分の「好き」なことを見つけ、活動(プロジェクト)を構想する - 仲間や担当者との対話を通して、活動の内容を修正したり発展させたりする - クラスメイトと「好き」を共有しながら、他者とのつながりや社会との関係を考える視点をもつ
言語面の目標	- 自分の好きなことや、自分のプロジェクトでやりたいこと、プロジェクトの進捗状況などを伝え合うために<u>自分に必要な言語の力(複数の言語を使いこなすストラテジーも含む)</u>を各自がそれぞれ伸ばす - 日本語を自分の言語資源の一つとして自信を持つ

■ 活動実施上の基本方針

(1) 対話を繰り返す

目標も進め方も何をどのように取り上げるかも、子どもを含むかわる人全員で対話して決めています。そのため、どんな形のプロジェクトが生まれるかは活動開始段階では不明！

(2) 臨機応変

計画通りにいくわけではありません。子どもの反応を大切にしつつ柔軟に、臨機応変に活動を変化させていくことになります。

(3) 子ども主体

子どものやりたいことから始まり、子どもがやりたいことを深めていく。大人は子どものプロジェクトをサポートすることに徹します。

*プロジェクト(前期)を終えた時点での子どもたちの声を一部、[前期の記録の最後](#)に掲載しています。

(4) 教師は協働実践者

子どもの思い付きや、やりたいことが形になるよう子どもと協働して実践します。子どもたち同士、子どもと担当者が協働で活動をつくります。時には子ども主導で、時には大人主導です。場面によってもお互いに立場を入れ替えながら実践を創っていきます。

(5) 過程重視

結果の形に縛られない。活動の過程に意味があるという意識で進めます。

(6) 自分の言語資源を活かす

発表も何語でやるかは自分で選択します。ですが、日本語で発表したり記録したりすることを支援し、日本語に挑戦するよう声かけは続けています。

補足：

上記の方針でプロジェクトを進めていましたが、後期については振り返ってみると時間の制限もあり(3) 子ども主体、および(5) 過程重視がうまく実現していなかったことに気づきました。

そこで、実際の記録には、「※こうすればよかった!」という振り返りを書き込みました。

また、この振り返りを基に作成した、[修正バージョンの進め方案](#)もつけました。

実践者による[実践の振り返りエッセイ](#)も掲載しています。ご興味のある方はご覧ください。

ダウンロードはこちらから

[資料_実践者エッセイ「はじめての試みを振り返って思うこと」\(PDF\)](#)

■ 年間の活動の構造

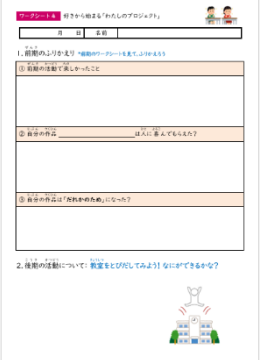
1回 90分 前期 9回、後期 7回

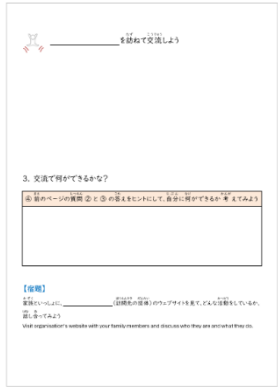
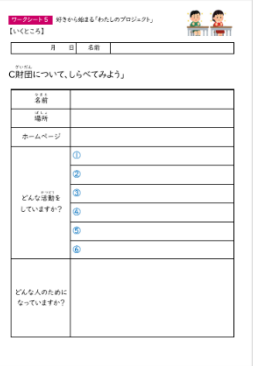
前期に 目指したこと	自分の好きなことを明らかにし、自分の「好き」を伝え、 自分の「好き」でほかの人と交流する
好きなこと マップ作成 3回	● 自分の好きなことのマインドマップを作る ● 友だちとマップを見せ合いながら、マップの内容を充実させる
作品決めと スケジュール作成 2回	● 自分の作る作品を決める ● 作品作成のスケジュールを考える
作品作成 2回	● 自分の作品を作る
発表会準備 1回	● 自分の「好き」がほかの人にどうすれば伝わるか、見せ方、 伝え方を工夫して、発表の作品の仕方を準備する
発表会 1回	● 一人ひとりが自分の「好き」を伝え、自分の「好き」でほかの人と 交流する

後期	自分たちの「好き」を生かし、「社会」とつながるためのプロジェクト を考え実施する
交流プログラム 企画・準備 4回	● 自分たちの「好き」を教室の中から外に広げる。C 財団運営のスラムの子どもたちと交流するためのプログラムをチームとして考える
交流プログラム 実施 1回	● 4つのチームによる交流プログラムを実施
交流プログラム 振り返り 1回	● 交流会が自分にとってどんな意味があったか振り返る
報告会 1回	● バイリンガル教室のほかの学年の子どもたちと保護者に向けて 交流会の報告をする

■ 実際の活動の記録:【後期7回】

【交流プログラムの計画】

時間	活動内容	留意点
1回目 (90分)	【目指したこと】 ・前期ではバイリンガル教室内に留まっていた自分の「好き」を外に広げ、活かす活動を考える。そのため後期に交流会をすることを提案し、前期の活動を振り返って、自分の「好き」が、交流活動(社会を知る、社会とつながる)にどう使えるかを考える。 ・具体的に交流会で何ができるかについて、アイデアを出し合う。 1. 前期の振り返り(グループ) ①グループに分かれ、ワークシート4に沿って、質問への答えを考える。(10分) 担当者は問いかけをしながら子どもたちそれぞれが質問の答えを考えるのを助ける。 <u>担当者からの声かけの例</u> T:前期の活動は楽しかったですか?何が楽しかった? T:自分の作品は人に喜んでもらえた? T:自分の作品は「だれかのため」になった? どんな人のためになったかな? ②記入が終わったら、グループ内で1人ずつ発表(10分)。他の人の発表を聞いて、気づきや感想がないか問いかけ、グループ内で共有する。 <u>担当者からの声かけの例</u> T:友達の発表を聞いてどう思った? T:自分と同じ? 違うところがあった? 2. 後期の活動計画の提案と訪問先候補の紹介(全体) ①担当者から、後期の活動は、前期の活動と作品を社会とつながる活動にすることを話す。 施設での交流活動に向けて、今後の活動で準備していくことを提案する。 ②担当者から、現地訪問先の候補であるC財団について簡単に紹介する。 ・現地に行ったことがある子どもからも紹介 ・訪問先について子どもたちと質疑応答	*こうするとよかった! 「好き」を活かして、どんなプロジェクトをするかを子どもたちに考えさせるとよかった。 ⇒修正バージョンをご覧ください! ワークシート4:前期の振り返り  *こうするとよかった! 交流会プロジェクトに決まったあと、訪問先は子どもたちが調べ、どこで実施するのがいいのか、それはなぜかを子どもたちと話し合い、決めた方がよかった。この調べる過程が社会への関心を喚起する大きな鍵であったはず。また調べること、調べたことの共有は、タイ語、日本語、英語など、子どもたちのさまざまな言語資源を活かせる場面でもある。 ⇒修正バージョンをご覧ください!

	3. 交流活動で何をやるか、アイデアを出し合う(グループ) ① I のグループに戻って、訪問先の子どもたちとの交流で、自分はどんなことができるか考えて、ワークシート4裏面の表に書く(15分)。 *話し合いの際には、I の話し合いをヒントにする。 担当者は問いかけをしながら子どもたちそれぞれが質問の答えを考えるのを助ける。 <u>担当者からの声かけの例</u> T: どんなことができる? S: 前期にミサンガを作ったのが喜ばれた。 T: 何か思いついた? S: うん。何か一緒につくるのがいいかな。 ② 全体共有 I 人ずつ発表する(15分)。 ほかの人の発表を聞いて、新たなアイデアが出たら、ワークシート4に各自書き足す。 4. 交流先候補について調べることを宿題にする *高学年部の子どもと保護者の合同の SNS グループに C 財団について親子で調べるように連絡する。	ワークシート4: 後期の活動計画  ・親子で調べることで活動を家族と共有する。また、親が持っている経験も活かせる。特に日本以外のルーツを持つ親も巻き込み、親の持つ経験と知識を資源として活かせる。
2 回目 (90 分)	【目指したこと】 スラムで自分たちの交流プロジェクトを企画運営することに決め、「自分の好き」でスラムの子どもたちに楽しんでもらうにはどうすればいいかを考える。 I. 交流先を知る(全体) 交流先は、C 財団が支援するスラムの子どもたちにしようと伝え、同財団がどんな支援活動を行っているか調べ、全員で共有する(ワークシート5)。 ※C 財団を交流先に選んだのは、図書館活動など、様々な子どもの教育支援が実施されているため。日本人が立ち上げた財団ということもあり、ウェブサイトにはタイ語、英語のほかに日本語もある。また、交流担当者が日本人であることも選定の理由である。	ワークシート5: 訪問先機関・団体調べ 

2. 当日の活動の流れの検討(全体)

個々の活動を考える前に、交流会として必要な活動の流れの検討を行う(ワークシート6)。時間が限られているため、担当者が提案し、その案を全員で検討した(写真1)。

(到着して初めの挨拶)

- 10:00 バイリンガル教室の紹介
- 10:05 日本のクイズ
- 10:15 グループごとの活動
- 10:50 寄付品を渡す
- 11:00 最後の挨拶
- 11:05 お掃除
- 11:30 財団出発

3. 当日の担当を子どもたちと相談して決める(全体)

【担当一覧】(写真2)

- ・財団の担当者への挨拶
- ・会場に掲示するプログラム作成
- ・はじめの挨拶、バイリンガル教室の紹介
- ・クイズ
- ・寄付品を渡す、事前に他のクラスにお願いに行く
- ・さいごの挨拶

4. 日本のクイズを考える(全体)

日本のクイズをすることは担当者からの提案。

どんなクイズにするかをみんなで考える(写真3)。

出たアイデア：食べ物、洋服、お菓子、地図、スポーツ、
国旗、挨拶、山、建国記念日、首都

5. 当日のグループ活動を考える(全体からグループへ)

出たアイデア：粘土細工、サッカー、UNO FLIP、塗り絵

*その後、「好き」が同じ子どもでグループを作り話し合う。

話し合い例：お菓子作りグループ

SI：お菓子づくりをやりたい。

T：食べ物を持っていくのはアレルギーがある子いるから難しいかな。

SI：(考え込む)

T：お菓子作りやお裁縫は、どんなところが楽しいの？

SI：レシピを調べて作るのが楽しいし、できあがっていくところ、食べるのが楽しい。

T：そしたら紙でクッキーを作ってデコレーションしてもらおう？

ワークシート6:訪問スケジュール

時間	活動	担当者
10:00		
11:30		

写真1：交流会のプログラム

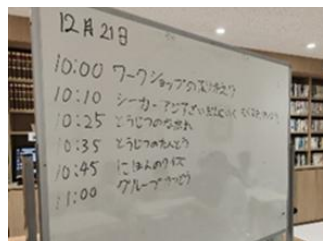
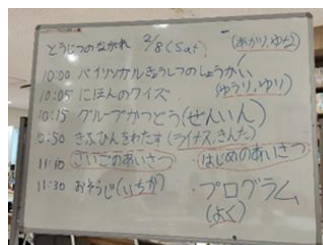
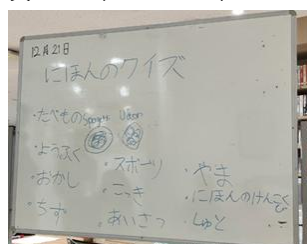


写真2：担当決め



当日の活動の流れを書き出し、担当を決めた。()の中にあるのが担当者の名前

写真3：日本のクイズ案

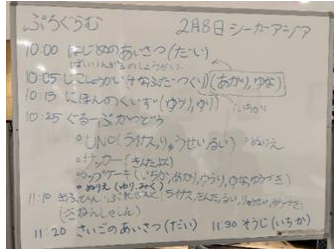


***こうするとよかった！**

当日の流れも、全体で日本のクイズをすることも担当者が決めてしまったのは大きな反省点。何をするかは子どもたちに考えさせるべきであった。そして、この話し合いでも自分の「好き」を活かしたはず。

⇒修正バージョンをご覧ください！

	S2: あ、じゃあ紙粘土でお菓子を作ったら立体になっていいかも！ S3: 食べれないよ。 S2: でもかわいいし、デコレーション楽しいよ。 S1: お菓子工作(笑) ⇒紙粘土で色々な食べ物を作ることに決定。 <u>話し合い例: サッカーグループ</u> S1: みんなで遊べるからサッカーがいい。 T: ゴールはひとつでいい？ S2: PK 戦でいいかな、こんな感じ。 ⇒会場のレイアウト図にサッカーをする場所を書き込み、ゴールを書き込んでから、誰がゴールを持ってくるか、ボールを持ってくるか、この時間に役割分担まで話し合って決めていた。	
3回目 (90分)	【目指したこと】 ・活動グループで具体的に活動内容と方法を考える。 ・担当(係)のグループに分かれて具体的に役割をイメージさせ準備を始める。 1. 「好き」が同じで集まったグループメンバーで相談 (写真4) ①必要なものは何かを考える。 ②何人ぐらいで遊べるか、一回するのにかかる時間はどのぐらいかを考え、活動をデザインする。 2. 全体で共有 ①グループで決めたことをそれぞれ発表する。 ②質疑応答 ・ほかのグループに質問をする。 そのグループの担当以外の担当者に質問をしてもらい、不明なところを、子どもたちにさらに具体的に考えさせる。 出た質問に対して、解決策が見つからなかったグループには、次回実際にしてみてもう一度考えよう提案した。 <u>担当者からの声かけの例</u> T: 解決できなかったグループは、次回、やりながら考えようか。	写真 4: クイズ担当  クイズの出し方について相談している

	3. 係の担当グループに分かれて準備 ・プログラム担当は当日の活動の流れがわかるプログラムの作成を開始。 ・寄付品担当は、財団がどんなところか、誰が何を必要としているかを調べ、寄付をほかのクラスにお願いに行くためにどうやって頼めばいいか考えた。 *活動終了後、寄付品グループは分かれて各学年部に寄付品のお願いに行った(写真5)。	写真 5: 寄付品担当  ほかのクラスで寄付のお願いをしているところ
4回目 (90分)	【目指したこと】 訪問先の方に喜んでもらえるよう心を込めて準備することの大切さを、リハーサルを通して再確認する。 友だちと意見交換し助け合って活動を完成させる。 1. プログラムと前回決めた係の再確認(全体) (写真6) 2. 活動グループのリハーサル (グループ) ① 実際と同じにやってみて、かかる時間や手順を確認する。(写真7) ② 実際の先方とのやりとりを想定して練習する。 *初めてその活動をする子どもに活動の内容をわかってもらうための練習。 <u>話し合い例:粘土グループ</u> T(子ども役):これなあに? 早く遊びたい! (言うことを聞かずに粘土キットをいじろうとするふり) Y: 今、やり方を説明するからちょっと待ってね。 A: 1人1つだけ作れるから、サンプルから好きなの、選んでね。 3. 係ごとにやることの最終打合せ *欠席の子どもはオンラインで参加(写真8)。 4. 通しリハーサル1回目(全体) ① 目的:プログラムの流れを全員で把握すること。 *グループ活動以外の全体でする活動に関するものだけを練習し、流れを共有。 5. うまいかなかったところを話し合い修正(全体) 6. 通しリハーサル2回目(全体) 「5」を反映させ、子ども同士で助け合いながら係として何を伝えたらいいか考え、練習する(写真9)。	写真 6: 当日のプログラム  写真 7: 活動グループのリハーサル  粘土でいろいろなお菓子を試作中 写真 8: 係の打ち合わせ  H君はオンラインで参加 写真 9: 通しリハーサル(寄付品係)  R君が言い忘れたことをYさんが助けているところ。話すことを3人で考えて完成させている

【交流プログラムの実施】

時間	活動内容	留意点
5 回目	【目指したこと】 ・教室外で環境の異なる子どもたちとの交流を行い、より多様な社会のあり方に気づけるようになる。 ・自分たちでイベントを運営するという活動の中で、みんなで協力したり、トラブルを解決したりなどの体験をする。 1. それぞれ車に分乗して現地へ移動 2. 現地会場のセッティング 3. 交流会の運営 ＜交流会プログラム＞(写真10、写真11) 10:00 はじめの挨拶 10:05 自己紹介(名札作り) 10:15 日本のクイズ 10:25 グループ活動 11:10 寄付品プレゼント 記念写真 11:20 さいごの挨拶 11:30 そうじ 4. 会場を片付けて、教室(日本人会本館)へ移動 <u>実際の子どもたちの様子と反応</u> Y: 帰り際に粘土を一緒にした女の子がハグにきて別れを惜しんでいた。 D: 何度も小さな男の子と腕相撲して負けてあげていた。 K: サッカー班を仕切っていた。状況に応じてルールを変更したり、子どもたちに優しくルールを教えてあげていた。更にルールを変更する前には「先生、ルールを変更してもいいですか?」とわざわざ確認してくれたり、非常に頼もしかった。 R: コンビニでごはんを買うために渡されたお金を使って、UNOの景品にとお菓子をたくさん買った。 N: サッカーで遊んだ男の子に引っ張られ UNO に誘われるが、担当を外れられないので NO と戻っていった。よく協力してサッカー班を上手に運営していた。トラップの位置の追加ルールを考案したり、安心して見ていられた。	写真 10: 当日会場用プログラム  交流先の子どもたちがわかるようにタイ語で書いた 写真 11: 交流会の様子 ①はじめの挨拶  ②バイリンガル教室の紹介  ③日本のクイズ  ④グループ活動(UNO) 

担当者の振り返り

- ・ 活動のねらいであった外部の子どもたちとの交流という点では、先方の小さい子どもたちが屈託なく懐いてくれたのでバイリンガル教室の子どもたちもスムーズに交流できていた。訪問直前で体調が悪くなった子への対応から、急遽ブース担当の変更、現場では勝手に遊び出す小さい子どもたちの面倒を見ながら、果ては犬が侵入してきたなどの予想外の事態にも、子どもたちは自然に協力しながら対応していた。今回教室内活動から外部に出た事により、子どもたちの連帯感がより増した印象を感じた。
- ・ 一方で、後期活動の山場であるこの交流会に向けて準備やリハーサルを行ってきたが、準備回まで参加しながら交流会に参加できなかった子どもたちが、「当日はいなかったが後期活動に参加している」といった充実感・達成感があったか、といった点で、もう少し何かフォローできたのでは、という課題を感じた。また、訪問したのがスラム支援団体であり、現地でのコミュニケーション言語や準備したポスターやスケジュールもほぼタイ語のみであった点も、少しバランス的に偏っていたかもしれないので、今後はその点も考慮に入れて活動をつくっていきたい。

⑤グループ活動(粘土細工)



⑥グループ活動(サッカー)



⑦グループ活動(塗り絵と折り紙)



⑧記念写真



みんなで集めたおもちゃや洋服を渡し、交流先の子どもたちと記念写真を撮った

【交流プログラムの振り返り】

時間	活動内容	留意点
6 回目 (90 分)	【目指したこと】 ・交流会の率直な感想を共有し、次の交流プログラムで何をしたいかを考える。 ・振り返りをなるべく日本語で記入できるようにすること。 1. 交流会の振り返りをする(ワークシート7、写真12) ①楽しかったこと、②大変だったこと、③気づいたこと、④喜ばれたと思うか、の4点について振り返った。 ①楽しかったこと <u>担当者の声かけの例</u> T:やってみてどうだった? 楽しかったこと、嬉しかったことは何ですか? S1:みんな喜んでくれて嬉しかった。 S2:新しい友達が作れて嬉しかった。小さい子と遊んで楽しかった。 S3:子どもたちの嬉しそうな顔を見れて、自分も嬉しかった。 S4:(遊び方の)説明するのが難しかったけど、相手に伝わってみんなで楽しく遊べたことが嬉しかった。 ②大変だったこと <u>担当者の声かけの例</u> T:大変だったことはありましたか? S1:1人で数人の子どもに粘土でお菓子作りのやり方を教えるのが大変だった。 S2:子どもが言うことを聞かないのが大変だった。 S3:子どもたちはタイ語。タイ語を話すのが大変だった。 S4:遊び方の説明をするのが大変だった。大変だったけど面白かった。 ③気づいたこと <u>担当者の声かけの例</u> T:自分たちの休みの過ごし方と、C財団の子どもたちの過ごし方を比べてどうかな? S1:小さなことであんなに喜べる方が幸せなのかも。私達は美味しいものを食べたり、いい物を買うのは当たり前になってしまっている。	ワークシート7:振り返り  写真12:振り返り活動 

	④喜ばれたと思うか <u>担当者の声かけの例</u> T:みんなの好きなことを子どもたちも喜んでいて? S1:喜んでいて。楽しそうに作っていた。 T:どうして喜んでもらえたと思う? S2:誰か遊びに来てくれる機会が普段にないから。 S3:普段できない遊びができたからかな。 2. 次の交流会で何をしたいかを、グループで話し合う <u>話し合い例:UNO グループ</u> T:次の交流会ではどんなことをしたいですか? S1:うまく説明ができた。みんな楽しんでいたから、 違うルールの UNO を教えていっしょにやりたい。 S2:自分たちで考えたもっと面白いルールのある。 これは……だから。 S3:日本語は何? T:どういうこと? (3人でタイ語と英語で相談) T:ああ、ひやっとする? どきっとする? S:ああ、もっとどきっとすることがしたい。 <u>担当者の振り返り</u> 子どもたちは、今回大変だったこと、楽しかったことを踏まえて、次にやるならこんなことをたくさんアイデアがでた。しかし、時間が足りず、担当者が枠組みを決めてしまったため、もっと自分たちの意見を聞いてほしい、などの意見も出た。 子どもたちの意見で活動をつくっていく後行シラバスではあるが、相手がある交流プログラムでは交流日から逆算してシラバスを考えねばならず、子どもたちに達成感を味合わせたいという思いから、大人が先導しすぎた。大人の提案の場合も、なぜそれを提案するか、大人側がプレゼンし、子どもたちに判断させるなどのやりとりをもっとすれば、大人(保護者教師)と子どもの協働プロジェクトになりえた。	
--	---	--

【プロジェクト報告発表会】

時間	活動内容	留意点
7 回目	【目指したこと】 どんな交流活動をしたのかをバイリンガル教室のほかのクラスの子どもや親たちに知ってもらう。それぞれ何か一つは、日本語で報告できるようにする。 1. 発表準備(20 分) <u>担当者の声かけの例</u> T: 日本語でチャレンジしたい人は単語1つからでもいいから、がんばってみようか。 S1: ล้อเล่นกัน って日本語、なに? S2: わかんない。先生、なに? T: からかい合うかな。 ⇒発表会では子どもたちとからかい合えたのが一番楽しかったと発表。 2. 発表(20 分) 当日のプログラムに沿って、担当した部分を、写真を使って何をしたのか報告した。前期は、自分の一番得意な言語で発表したが、後期の発表会では全員が日本語で発表した(写真12)。 3. バイリンガル教室全体での発表者との対話時間(20 分) バイリンガル教室全体で子どもたちの作品を見合い、子どもたちにコメントをする時間。この時間には個々人が質問に答えた。	写真 13: 発表 ①粘土グループ  ②サッカーグループ  ③UNO グループ 

■ 後期活動修正バージョン

後期は時間に追われて大人主導になりすぎたのが反省でした。何が足りなかったのかを振り返ると、活動方針の中の下の2点が実現していなかったことに気づきました。

(3)子ども主体

子どものやりたいことから始まり、子どもがやりたいことを深めていく。大人は子どものプロジェクトをサポートすることに徹します。

(5)過程重視

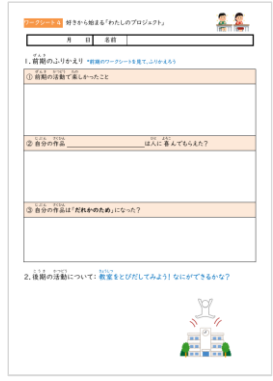
結果の形に縛られない。活動の過程に意味があるという意識で進めます。

後期の教案の中に「*こうするとよかった!」という見出しをつけて、留意点にも記述しましたが、この振り返りを踏まえるとのような進め方ができるかを改めてまとめてみました。修正バージョンは、「どんなプロジェクトを、どこでだれとやるのか」を、子どもと対話しながら考え決めることにもっと時間をかけて実施するプランです。下の紫の個所が修正部です。

後期		自分たちの「好き」を生かし、「社会」とつながるためのプロジェクトを考え実施する
プロジェクトを考える	2回	● 「好き」を生かして、社会と関わるプロジェクトを考える
交流プログラム企画	4回	● 交流プロジェクトを実施することに決定。C 財団運営のスラムの子どもたちと交流することにし、自分たちの「好き」を生かした交流の内容を考える
交流プログラム実施	1回	● 4つのチームによる交流プログラムを実施
交流プログラム振り返り	1回	● 交流会が自分にとってどんな意味があったか振り返る
報告会	1回	● バイリンガル教室のほかの学年の子どもたちと保護者に向けて交流会の報告をする

■ 後期修正バージョンの全体の概要(大まかな流れ):

【後期プロジェクトの計画】(全2回)

時間	活動内容	留意点
1 回目 (90分)	プロジェクトを決める 1/2 回目 【目指すこと】 どんなプロジェクトにするか考える。 前期の「好きから広がるわたしプロジェクト」を生かし、 自分の好きを通して社会とどのように関わりを持つことができるかを意識してプロジェクトを考える。 1. 前期の振り返り (30分) ①グループに分かれ、ワークシート4に沿って、自分の感想や考えをシートに記録する(15分) ・前期活動で何が楽しかったか。 ・自分の作品(発表)は人に喜んでもらえたか。 ・自分の作品(発表)はだれかのためになったか 担当者は問いかけをしながら子どもたちそれぞれが質問の答えを考えるのを助ける。 <u>担当者からの声かけの例</u> T:前期の活動は楽しかったですか?何が楽しかった? T:自分の作品は人に喜んでもらえた? T:自分の作品は「だれかのため」になった? どんな人のためになったかな? ②記入が終わったら、グループ内で1人ずつ発表する。他の人の発表を聞いて、気づきや感想がないか問いかけ、グループ内で共有する。(10分) <u>担当者からの声かけの例</u> T:友だちの発表を聞いてどう思った。 T:自分と同じ? 違うところがあった? ③全体共有(全体)(5分) T:グループでどんな意見ができましたか。 みんなに教えてください。 2.後期の活動「好きを活かしたプロジェクト」を考える(45分) 前期に行った、自分の「好き」を、バイリンガル教室の外に広げ活動をしようと呼びかける。(5分)	ワークシート4:前期の振り返り  ・この教室ではチャリティーグッズを作成販売して、犬猫の傷病施設に寄付したことがある。グッズは子どもたち一人ひとりのオリジナル作品。その時のスライドを紹介する。

	どんな活動がしたいか、できるか話し合う。 ①グループに分かれ、自分のアイデアを付箋に書きだす。 (10分) ②A3の紙に貼りだし、同じものを一緒にする。 自分のやりたいことをアピールする。(10分) ③新たなアイデア、アイデア変更があったら書き足しや修正をする。(10分) ④全体で、グループで出していたアイデアをホワイトボードに貼り出して、似ているものをグループ分けして、名づけをする。(10分) <u>名づきの例</u> ・一緒に遊ぶ→〈交流会〉 ・一緒に作る→〈交流会〉 ・自分の好きなものを作り販売し、売り上げを寄付する →〈バザー〉 〈チャリティ〉 ・自分の好きなこと、得意なことを紹介し体験してもらう →〈ワークショップ〉 他にも、コンサート、運動会など 3. どんなプロジェクトにするか決める(15分) これまで出てきたアイデアのどれがいいか、どんな活動がそれぞれの「好き」が一番活かせる、人のためになる場として向いているのかなどを考える。 <u>担当者からの声かけの例と想定されるやりとり</u> T: 交流会が多いね。みなさんどうでしょう。 チャリティは? SI: 僕は自分の考えたボードゲームで遊んでもらいたから交流会がいい。 S: 交流会にワークショップを入れてもいい? T: みんな、どう思う? S: ワークショップも、みんなと一緒にやるんでしょ。 S: じゃ、交流会にすればみんなやりたいことがやれるんじゃない。 「交流会」が選ばれたと仮定 宿題 <u>担当者からの声かけの例</u> T: それではどんなところでやるかを考えて、それからまた何をやるかを考えましょう。どんな場所でワークショップや運動会を取り入れた交流会ができるか調べてきてください。家の人たちとも一緒に調べてください。	・ワークシート例: ワークシート4の続きに後期のプロジェクト欄をつくり、そこに決まったことと自分の希望を書く。 ・保護者にも交流会を行うこと、交流先と一緒に調べるよう依頼する。 ・担当者は交流ができそうな機関、団体を調査する。
--	--	---

2 回目 プロジェクトを決める2/2 回目

(90分)

【目指すこと】

交流会プロジェクトを具体化する。

- ・交流先を決める
- ・交流会で具体的に何を行うかを考える

1. 調べてきた情報を共有する(25分)

子どもたちが調べてきた施設、団体を紹介し合う。

- ①どんな場所で交流会を行うことができるか、
調べてきたことを全体でざっくり発表する。(5分)
- ②グループに分かれ、調べてきた情報を発表し合い、
グループでどこかいいか話し合う。(15分)
- ③全体に戻り、ホワイトボードに各グループのアイデアを書き出す。(5分)

2. 交流先を決める(20分)

- ①グループ発表。なぜそこがいいかアピールする。(5分)
- ②グループに分かれて相談。
どのグループのアイデアが良かったかなど。(10分)
- ③全体で話し合って決める。(5分)

「C財団」に決まると仮定**3. 交流先のC財団について調べる(25分)**

- ①C財団について詳しく載っているサイトを探し、携帯やパソコンで調べたことをワークシートにメモする。(15分)
- ②全体で共有。(10分)

担当者からの声かけの例と想定やりとり

T:どんなところでしたか。

S1:バンコクで一番大きいスラム。

S2:親はみんな働いている。

S3:貧しい人たち。

ワークシート例:

- ・どこでやるか?
- 調べてきたことを書き出す。

ワークシート例:

- ・決まった場所について調べる

わたしプロジェクト 好きなことから始まる『わたしプロジェクト』

【調べたこと】

名前	調べたこと

わたしプロジェクト C財団について、しらべてみよう

名前	調べたこと

どんな活動をしていますか?

どんな人のためになっていますか?

・ウェブサイトは日本語、タイ語があるためそれぞれの得意な言語で調べるが、ワークシートは必要に応じて担当者がサポートしながら日本語で記入していく。

	4. C 財団が支援する子どもを対象に「好き」を活かしてどんな交流会ができるか、何をしたらいいか考える(10分) <u>担当者からの声かけの例と想定やりとり</u> T:ここでみなさんの得意なこと、好きなことを活かしてどんな交流ができそうですか。 こんなことをやりたいということがありますか。 S1:子どもたちに自分の好きなサッカーを好きになってもらいたい。一緒にフリーキックのゲームをしたい。 S2:一緒に絵を描きたい。描き方を教えたい。 S3:日本のことを紹介したい T:次の回からみんなで考えましょう。 5. C財団が必要としていることはほかにはないか考える(10分) <u>担当者からの声かけの例と想定やりとり</u> T:「好き」を活かして、子どもたちと交流ができそうですね。ほかに何かできそうなことがないか考えてみて。 S1:ゲームとかもっていなさそう。あげたいな。 S2:寄付する? S3:何が必要? T:図書館があるので本の寄付は嬉しいそうです。 ほかに、おもちゃや、子どもたちが使えるものが足りないそうです。 S4:じゃ、家からもっていく。 T:このクラスだけ? S4:ほかのクラスにも頼みに行く。 S5:いいね。 T:じゃ、寄付のことはまたあとで考えましょう。 宿題:会場の施設調べ <u>担当者からの声かけの例</u> T:では、次回は何をするか考えるから、会場がどんな場所か調べてきてください。広いところがないとサッカーできないですね。	・ここではざっくりしたイメージを持つだけ。 ・担当者は前もってどんなものが必要とされているか調べておく。 ・担当者はC財団に交流活動が可能か、いつならできるか確認する。 ・ネットで会場写真を探させる。 ・宿題の会場写真は高学年のSNSグループで共有しておく。
--	--	--

【交流プログラムの企画】(全4回)

時間	活動内容	留意点
3 回目 (90 分)	交流会の内容を考える 1/4 回目 【目指すこと】 ・実際に交流会で何をやるか考え、活動チームを作る。 1. 会場の確認と会場のできることを考える(20分) ①宿題で調べてきたことについて話し合う。(10分) <u>担当者からの声かけの例と想定やりとり</u> T:どんな場所でしたか。 (写真を見せ合う) S1:ちょっと広い場所がある。 S2:サッカーできそう。 T:サッカーできそうなぐらい広い? S3:大きな机がある場所もあります。 T:一緒に工作をしたいというアイデアがありましたね。 できそう? S4:一緒に工作できそうです。 T:ほかのチームは? S5:外に机があるから、そこでボードゲームがやれそう。 ②この会場でしたいこと、できそうなことを書き出す。 (10分) 個々人で付箋に書いて、ホワイトボードに貼り、 同じもの、似ているものでグループにする。 <u>〈グループ例〉</u> a. サッカー b. ボードゲーム c. 絵を描く d. 一緒に作る 2. チーム別に何をするか具体的に考える(65分) a~dのグループに分かれて何をどうやるかを相談する。 ①チームごとに具体的にしたいこと、できることを考える。それぞれの課題も考える。担当者はそれぞれのチームの課題が解決できるようアドバイスする。(35分) aチーム:サッカー 課題:この広さでやるにはどうしたらいいか bチーム:ボードゲーム 課題:どんなボードゲームがいいか	担当者は会場について前もってC財団に詳細に聞いておく。 ・何かを一緒に作りたい子どもたちは、作りたい物がバラバラであっても「d.一緒に作る活動」チームにする。

	c チーム:絵を描く 課題:どんな材料で描くか、何を描くか d チーム:一緒に作る 課題:バラバラでやるのか、いくつかのチームに まとまってやるのか。まとまってやるなら何を 作るのか。 ②決まったことをワークシートに書く。(20 分) ③全体で共有する。(10 分) 活動内容を共有する。内容が決まっていないチームは 出たアイデアを発表する。チーム名をつける。 例: <table><tr><td><u>やること</u></td><td><u>チーム名</u></td></tr><tr><td>a ミニサッカー</td><td>サッカーチーム</td></tr><tr><td>b UNO</td><td>ウノチーム</td></tr><tr><td>c 未定</td><td>お絵描きチーム</td></tr><tr><td>d 未定</td><td>工作チーム</td></tr></table> 3. 次回の活動について(5 分) 具体的な活動内容を決めるために、交流会の時間と大雑 把な活動の流れを考える。チームの活動だけでなく、交流 先の子どもたち全員と、バイリンガル教室の全員が交流で きる時間もあった方がいいのではないかと提案。 宿題1:全体で何をするといいか、考えてくる 宿題2:cとdは何をするか決められるように考えてくる。	<u>やること</u>	<u>チーム名</u>	a ミニサッカー	サッカーチーム	b UNO	ウノチーム	c 未定	お絵描きチーム	d 未定	工作チーム	ワークシート例: ・チーム名 ※最後に書き込む ・何をやるか ・考えたこと ・決まったこと
<u>やること</u>	<u>チーム名</u>											
a ミニサッカー	サッカーチーム											
b UNO	ウノチーム											
c 未定	お絵描きチーム											
d 未定	工作チーム											
4 回目 (90分)	交流会の内容を考える2/4 回目 【目指すこと】 当日行う活動を決めて準備に入れるようにする。 1. 全体活動について考える(20分) 全体活動をやるかどうか、やるなら何をやるかを決める。 <u>担当者からの声かけの例と想定やりとり</u> T:全体会のアイデア、考えてきましたか。 S1:学校でほかの学校と交流会するときにも最初にゲー ムしたりするから、ゲームをすると思う。 S2:私は日本のことを知ってほしいから、日本のクイズを やりたい。 S3:小さい子は無理じゃない? S2:小さい子にもわかるようなクイズにすればいい。 T:例えばどんな?											

	話し合いの末に日本のクイズをする、ということに決定したと仮定。どんなゲームにするかアイデアを出し合う。 <u>担当者からの声かけの例と想定やりとり</u> T:じゃ、どんなクイズにするか、今日のみんなのアイデアもいれて考えてくれる人、いますか？ S2:やりたいです。 S4:私も。 T:じゃ、〇さんと〇さん、クイズの担当、お願いします。 2. チーム活動について話し合う(60分) 次回、実際にやってみたり、作ってみたりするので、その準備と係も決める。 ①チームに分かれて、相談。 ・何をするか最終決定 ・活動の流れ(時間の割り振り) ・必要なもの ・チームの中の係など細かく決めていく ・次回の試作/試演に必要なこと ②決まったことはシートに記録する。 3. 話し合ったことを全体で共有し、不明なことをはっきりさせる。(10分) 子どもたちから質問が出ない場合、そのチームの担当者以外の担当者に質問をしてもらい、まだ漠然としているところや詰まっていないところを子どもたちに更に具体的に考えさせる。出た質問に対して、解決策が見つからなかったチームには、次回実際に試してみ、どうすればいいかももう一度考えるよう提案。 <u>担当者からの声かけの例</u> T:どうすればいいかわからなかったチームは、次回やりながら考えようか。	ワークシート例： ・何をするか最終決定 ・活動の流れ(時間の割り振り) ・必要なもの ・チームの中の係
5回目 (90分)	交流会の内容を考える 3/4 回目 【目指すこと】 ・チーム活動の最終決定 ・交流会のプログラムつくりと係決め	ワークシート例： ・最終決定活動 ・やってみての改善点 ・当日の担当

1. チーム活動の最終決定と試作試演 (40 分) チーム別に相談と試作 ・やってみる ・最終的に何を、どうするか決める ・当日用意するものとチーム内の担当を決める ・ワークシートに記入 <u>最終案</u> a <u>サッカーチーム</u> PK合戦 小さいゴールを組み立て式で作る。 試作したものを修正する。 サッカーボールはビニールボールを持ち寄る。 b <u>ウノチーム</u> UNO 自分たちで考えたルール of UNO をする。 ルールの説明の練習をする。 タイ語のできる人が説明する。 実際にカードを配る人、子どもたちができるように手伝う 担当を決める。 c <u>お絵描きチーム</u> 塗り絵を作って色を塗ってもらう。 それぞれ塗り絵の絵を描いて、白黒プリントをしてくる。 画材の色鉛筆はほかに人にも声をかけて持ってきてもらう。 何枚か試作をする。 d <u>工作チーム</u> 紙粘土でカップケーキを作る。 訪問先の子どもたちが、たぶんやったことのないと思う 工作を、体験してもらいたい。 材料は分担し購入することにし、分担を決める。 全員作り方を説明できるようにする。 見本をみんなで試作する。 2. 寄付について決める (15 分) <u>担当者からの声かけの例と想定やりとり</u> T: 寄付をしたいという意見がありました、 寄付はどうしますか。寄付する品物を集めますか？ T: 近くに座っている人と相談してください。 (寄付を集めるかどうかを近くに人々と相談する。) <u>寄付をすることに決まると仮定</u> 以下 2 点についても相談する。	担当者は前もって財団の人にどんな ものが欲しいか聞いて伝える。 ほしいものの一本、おもちゃ、服、生活 用品など 保護者には担当者からどんなものが いいか寄付品の品目を知らせ、準備 してもらうよう伝える。
---	---

	・どんなものが喜ばれるか → 絵本、本、おもちゃ、服、生活用品 ・誰に、どう呼びかけるか 子ども: クラスごとに呼びかけに行く 担当者: バイリンガル教室の全員に対し SNS で呼びかける <u>担当者からの声かけの例</u> T: では、寄付の呼びかけは次回の活動の終わりの時間に みんなで分担して、各クラスを回ってください。 サッカーチーム: 中学年部 UNO チーム: 低学年部 工作、お絵描きチーム: 幼児部 3. 交流会プログラムと当日の係を決める(40分) ① プログラムを考える。(15 分) <u>担当者からの声かけの例と想定やりとり</u> T: 交流会のプログラムを決めましょう。 こういう会では何が必要でしょう。 S: 最初の挨拶 T: 私たちの紹介は? やりとりしながらプログラムを作る。 <交流会プログラム> 10:00 はじめのあいさつ 10:05 自己紹介(名札作り) 10:15 日本のクイズ 10:25 チーム別活動 11:10 寄付品プレゼント 記念写真 11:20 さいごのあいさつ 11:30 そうじ ② プログラムに沿って、係を決める。(10分) <u>担当者からの声かけの例</u> T: どの係をやりたいですか。 全員で話し合いながら決める。 10:00 はじめのあいさつ ○さん 10:05 自己紹介(名札作り) ○さん 10:15 日本のクイズ ○さん 10:25 チーム別活動 全員 11:10 寄付品プレゼント ○さん 記念写真 ○先生	ワークシート例: ・プログラムと担当 ・プログラム以外の担当
--	--	---

	11:20 さいごのあいさつ ○さん 11:30 そうじ 全員 ③その他、交流会に必要なものの作成の担当を決める。 (交流会広報チラシ、当日掲示するタイ語プログラム) (5分) <u>担当者からの声かけの例と想定やりとり</u> T:子どもたちに呼びかけるチラシが必要です。 できたら、C 財団の方がプリントして貼ってくれるそうです。子どもたちにも配ってくれるそうです。 だれか作れる人いますか。 お絵描きチームの人どうですか。 S1:やります T:それからその日に貼り出すプログラム表も必要です。 タイ語で書ける人? S2:○さんはタイ語の字がきれい。 T:○さん、どうですか? ④決まったことをワークシートに書きこむ。(5分) <u>担当者からの声かけの例</u> T:広報チラシができれば共有SNSに送ってください。 次回予告 <u>担当者からの声かけの例</u> T:次回リハーサルします。プログラムで話す担当の人はどう話したらいいか考えてきてください。	
6 回目 (90分)	交流会の内容を考える4/4 回目 【目指すこと】 訪問先の方に喜んでもらえるよう心を込めて準備することの大切さを、リハーサルを通して再確認する。 友だちと意見交換し、助け合って活動計画を完成させる。 1. プログラムと前回決めた系の確認(全体)(5分) 2. 活動チームのリハーサル(グループ)(20分) ①実際と同じにやってみて、かかる時間や手順を確認する。 ②実際の先方とのやりとりを想定して練習する。 <u>話し合い例:工作チーム</u> T(子ども役):これなあに? 早く遊びたい! (言うことを聞かずに粘土キットをいじろうとするふり) S1:今、やり方を説明するからちょっと待ってね。	・初めてその活動をする子どもに活動の内容をわかってもらうための練習をする。

	S2:1人1つだけ作れるから。サンプルから好きなの選んでね。 3. 係ごとにやることの最終打合せ (15 分) 司会のことばなど。 4. 通しリハーサル ①1回目(全体)(20分) 目的:プログラムの流れを全員で把握すること。 ※チーム活動以外の全体である活動に関するものだけを練習し流れを共有。 ②うまくいかなかったところを話し合い修正する。(全体)(10分) ③ 通しリハーサル2回目(全体)(20分) ②を反映させ、子ども同士で助け合いながら係として何を伝えたいか考え練習する。 寄付の呼びかけ方も確認する。 5. 各クラスに寄付品をもってきてもらうよう呼びかけに行く	
--	---	--

※これ以降は、実際にやった実施案通りです。 第7回教案(実践記録)(p.9)